【問 4】 「ガラパゴス携帯」について[1] 弓削 哲也（通信会社社員）

また、文中に「ガラパゴス携帯」の件について、「事業者がユーザーでなく総務省を向いていたからだ。」とありますが、内容の当否は別として、なぜ「事業者が総務省を向く」と「ガラパゴスになる」のか、論理的関係が分かりません。日本の携帯端末が国際競争力がないのは事実であるとしても、ガラパゴス化したのはむしろユーザーの細かい要求（明示的かどうかは別にしても）に応えていった結果であると思います。

有識者の方が、「ガラパゴス携帯＝悪＝消費者無視」といった、世上言われる論理をそのまま認めておられるとは思われず、深い考えがおありのことと思いますので、このあたりの論理をもう少し明確にご説明いただければありがたく存じます。

【問 4 への回答】

小生はこの箇所（小論 p.82）で、「公平かつ開かれた競争環境」が産業発展のために重要であることを指摘し、比較審査の継続がそのような望ましい環境の形成を妨げ、その結果日本の携帯産業の競争力が落ちて海外進出も見られなくなり、国内では「ガラパゴス携帯」が生じた旨を述べています。その背景にある因果関係は末尾の図のようになります。ただし図の内容は論理的な関係というより、観察結果から抽出・推論した経験則とも言うべきものです。

小論では、携帯事業者が意図的に消費者を無視してガラパゴス携帯を供給した、つまり「ガラパゴス携帯＝悪＝消費者無視」とは考えていません。比較審査の長期継続とそれに伴う「公平で開かれた競争環境の欠如」すなわち既存事業者のみによる国内だけの閉じた競争環境に事業者が適応したことから「ガラパゴス状態」が生じ、またそのことも一因となって競争力が低下し海外進出が見られなくなったことを指摘するものです。

日本で「国内市場が飽和した」という論評は聞きますが、「国外とりわけ中進国・新興国で現在数十億加入の携帯需要が生まれつつあり、国外市場に進出しない法はない」という議論はほとんど聞かれないわけです。事業者の成長のためにも、日本経済のためにも残念なことではないでしょうか。

もし日本の携帯市場が（他先進国のように）早くから海外にも開かれた公平な競争環境になっていたならば、日本の携帯端末・サービスは自然に海外でも通用するものになり、「ガラパゴ

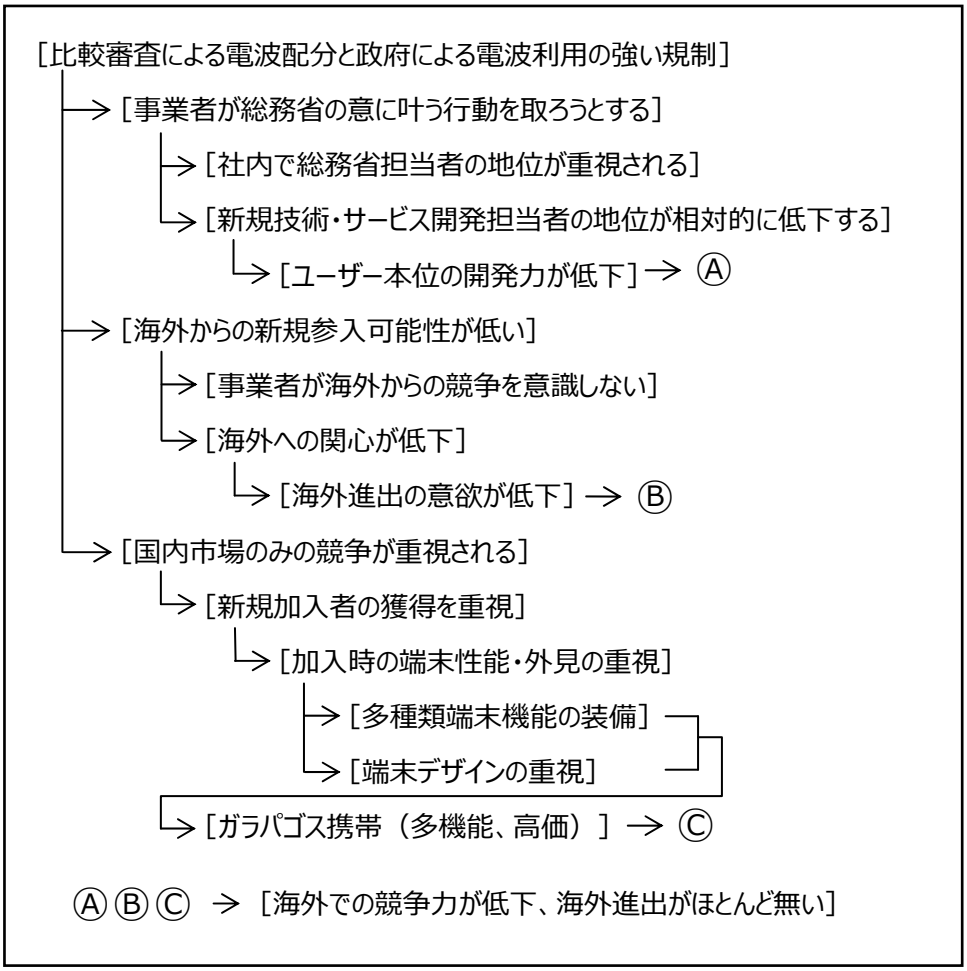
[1] 本質問は質問者個人の個人的見解であり、質問者の所属する会社の見解ではなく、ましてや同会社の利益を目的とするものでもありません。したがって、本質問についての引用はご遠慮ください。

oniki@alum.mit.edu
www.ab.auone-net.jp/~ieir/

ス」にはならなかったのではないか――他の多くの輸出産業（自動車、デジタルカメラ、電気製品など）と同じように――ということです。

もとよりこの結果の責任は事業者に帰すべきことではなく、主として総務省施策の結果（失敗）であり、事業者は与えられた環境（比較審査による国内だけの閉じた競争環境の長期継続）に適応したものと考えています。このような失敗を 3.9G（LTE）や 4G 以後の携帯産業で繰り返すことは避けたいものです。

図： 日本の携帯産業における因果関係



oniki@alum.mit.edu
www.ab.auone-net.jp/~ieir/